

## 平成 30 年度 全国学力・学習状況調査 箱根町立小・中学校の調査結果について

平成 30 年 4 月 17 日に実施された全国学力・学習状況調査の箱根町の結果をまとめました。

### 1 調査の目的（文部科学省より）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### 2 調査の概要

箱根町では、4 校、126 人の児童・生徒が参加した。

内 訳：町立小学校 3 校全 6 年生 65 人、町立中学校 1 校全 3 年生 61 人

### 3 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

(国語, 算数・数学)

#### ◆主として「知識」に関する問題 (A)

\*身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

\*実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

#### ◆主として「活用」に関する問題 (B)

\*知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

\*様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

(理科)

◆理科は「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。平成 24 年度に抽出による調査、平成 27 年度に悉皆調査を実施し、今回 3 回目となる。今回も悉皆調査として実施した。

#### (2) 児童生徒に対する調査

\*調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 4 結果の概要

#### (1) 教科に関する調査結果の分析内容について

◇小学校

#### 【国語】

昨年度の調査結果からの課題は、条件に合わせ、決められた字数で文章を書くこととその無回答率の高さであったが、今年度の状況も大きな変化は見られなかった。

A の調査では、「話すこと・聞くこと」の設問についてはほぼ良好であり、全国平均正答率を上回る学校もあった。「漢字を読む・書く」については、今年度出題されたような、文の内容や意味を理解し、正しく漢字を使うという問題に対し課題が見られた。単に漢字の書き取りの練習だけでなく、一つの漢字の音読み、訓読みを正しく理解する学習が必要である。また、主語と述語、修飾と非修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解について課題が見られた。

Bの調査では、全体的に前述の「記述形式の問題」に苦手意識をもっている児童がまだ少なくないという課題が残った。Aの調査に比べると無回答率は低く、問いに対して前向きに取り組んではいるものの、複数の条件を満たして自分の考えを書くところを一つの条件を満たしていないため正解とならない解答が多い。知識・技能等を活かし、相手や目的、意図、場面や状況に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする学習を日常的に取り入れていく必要がある。また、目的に応じて複数の本や文章を選んで「読むこと」ができることと共に問題文をしっかり読んで問題の意図を理解する「読みとる力」を身につけさせたい。

### 【算数】

昨年度の調査結果からの課題は、①計算の意味の理解と求める式の決定 ②問題を把握して、それを考察し的確に表現すること の2点であった。今年度の状況から、①については、大きな変化は見られなかったが、②については改善が見られ、一部では無回答率も全国を下回っていた。

Aの調査では、小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それをを用いることができるようにすることに課題が見られた。乗数や除数が整数である計算の考え方を基に、除数が1より小さい小数であっても除法で求めるところを乗法で解答する誤答が多く全国平均正答率を下回った。また、基準量は比較量よりも大きくなるのに、計算結果が小さくなっても、そのことに気付かない実態が見られる。およその大きさを捉えることによって、解決の見通しをもつことができ、大きな誤りを防ぐことができるため、計算の結果の見積りや確かめの習慣を身につけることは大切である。

Bの調査では、算数の問題場面で示されたいくつかの具体例から共通性を見だし、その前提を基に、同じようにきまりが成り立つことを言葉と数字で説明することができ全国平均正答率を上回った。一方、図形領域では、構成要素に着目して、図形を構成していくことが十分ではなかった。このことから、図形の学習においては、具体物を用いて確認していく活動を通して、図形についての感覚を豊かにしたり、図形の性質を実感的に理解したりすることを心がけたい。

### 【理科】

主として「知識」に関する問題は、全国平均正答率並みであり、主として「活用」に関する問題は全国平均正答率をやや下回った。区分別の正答率では、「物質」と「生命」は全国平均正答率並みであったが、「エネルギー」と「地球」は全国平均正答率を下回った。観点別の平均正答率では、「自然事象への関心・意欲・態度」については全国より上回り、「科学的な思考・表現」は全国より下回っていた。「観察・実験の技能」や「自然事象についての知識・理解」は全国平均正答率並みであった。

観察において安全に留意する態度や生物を愛護する態度や、調べたことを模型へ適応することは、全国平均正答率を上回った。一方、既習の内容や生活経験を実際の自然や日常生活などに適用することに課題が見られた。また、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通して実験を構想することにも課題が見られた。

すべての問題の無回答率は低かったが、記述式の問題では、全国平均正答率を下回った。

## ◇中学校

### 【国語】

昨年度の調査結果からは①自分の材料を集め、まとめ、自分の考えを書く問題 ②古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える古典問題 に課題が見られた。①については昨年同様本年度も課題が見られたが②については若干の改善が見られた。しかし、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題が見られた。

Aの調査では全体的に概ね全国平均正答率並みであった。語句の意味を理解し文脈の中で適切な語句を選択する問題については全国平均正答率を上回った。「文脈に即して漢字を読む、書く」問題の読みは昨年度同様良好であったが書きについては課題が見られた。そこで、引き続き箱根ミニマムへの日常の取組と国語の時間に限らず習得した漢字を使って文章を書くことを大切にしたい。伝えたい事実や事項が相手に分かりやすく伝わるように書いたり、行書の基礎的な書き方を理解して書いたりする問いは全国平均正答率を下回った。また、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問いについては全国平均正答率が非常に低かったのと同様にかなり低い結果となった。

B問題では文章とグラフとの関係を考える、文章の構成や展開について自分の考えをもつ、内容を整理して書くの3点に課題がある。そこで、日頃より書くことの習慣をつけ普段から伝えたい事柄や自分の考えを整理して、文章にする学習や書いた作品を発表する場を設け、音声言語における他人に伝える力を育成することが必要である。

### 【数学】

昨年度の結果から、①数学用語の理解 ②道筋を立てて考え、説明したり証明したりする ③問題を把握し、考察し、的確に処理することの3点が課題であった。今年度の状況から、①、②については、大きな変化は見られなかったが、③については、改善された部分が見られた。

Aの調査では、基本的な計算は、全国平均正答率並みであるが、指数を含む正の数と負の数との計算、連立方程式の解法は、十分ではなかった。数直線上の負の整数を読み取ることや、数量に着目し連立方程式をつくることは全国平均正答率を上回ったが、絶対値の意味を理解していないことや等式の性質を用いて目的に応じて変形することが全国平均正答率を下回った。図形領域では、多角形の内角の和の性質の理解や、三角形の合同条件について十分に理解できず、全国平均正答率を下回ったが、図形での他の用語の理解は、全国平均正答率並みであった。関数領域では、基本的な用語の理解や式・表・グラフ・変域を関連づけて考えることができておらず、全国平均正答率を下回った。「資料の活用」領域では、最頻値や中央値を求めることは、全国平均正答率並みであり、確率の意味の理解や確率を求めることについては、全国平均正答率を上回った。課題については、箱根ミニマム等も活用し年間を通して定着を図っていきたい。

Bの調査では、与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることや、必要な情報を選択し、的確に処理することでは、全国平均正答率を上回った。記述式の問題では、無回答も多く、道筋を立てて考え説明したり証明したりすることは、全国平均正答率を下回った。

## 【理科】

主として「知識」に関する問題も、主として「活用」に関する問題もほぼ全国平均正答率並みであった。分野別では、化学的領域と生物的領域、地学的領域は全国平均正答率並みであったが、物理的領域は全国平均正答率を下回った。これは計算することに課題があるためと考えられる。

「自然事象についての知識・理解」は全体的に良好であり、特に箱根ミニマムチャレンジで出題されている問題は、全国平均正答率を大きく上回っていた。

前回の調査では、グラフを読み取り、科学的に思考することに課題が見られたが、今回の調査では改善が見られた。また、学習した内容を日常生活に結びつけて考えることも良好であった。

すべての記述式の問題では無回答率が高かった。自分の考えを表現することに苦手意識を持ち、取り組む意欲が低い結果となって表れたと考えられる。特に、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見出すことに課題が見られた。

## (2) 児童生徒に対する質問紙調査結果の分析内容について

### 【小学生の質問回答より】

- 学校の授業時間以外における1日当たりの勉強時間について、1時間以上勉強する児童の割合が昨年度の本町の状況と比べ、大幅に増加した。また、全国を上回っている。各小学校の指導の成果が表れており、家で、自分で計画を立てて勉強している児童も大幅に増加した。
- 4割以上の児童が、学校の授業時間以外に、毎日30分以上読書をしている。これは、昨年度の状況及び、全国を上回る結果だった。各小学校では、本に親しみやすい環境づくりに努めたり、隙間時間に読書や読み聞かせを行ったりするなど、工夫した取組の効果が見られる。
- 「地域行事に参加している」と回答した児童は9割に迫る結果となった。「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」と回答している児童は昨年同様に8割を超えており、「箱根教育」や「地域教育」の実践の成果が見られる。一方、「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心」や「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」については地域行事の参加の割合と比較するとばらつきがあった。総合的な学習の時間等で、探究的な学習の時間の充実をこれからも図っていくことが求められる。

### 【中学生の質問回答より】

- 学校の授業時間以外における1日当たりの学習時間について、1時間以上勉強をしている生徒の割合は、昨年度よりも増加している。さらに、学校の授業の予習、復習を行っているという回答した生徒の割合が、昨年度の結果及び全国と比較して上回っており、改善が見られる。
- 4割に迫る生徒が毎日30分以上読書をするという回答しており、今年度も全国を大きく上回る結果だった。本に親しもうとする姿となって表れているのは、朝読書の時間の実践など、継続した取組の成果であると考えられる。

- 今年度も約 6 割の生徒が「地域行事へ参加している」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答している。生徒は、地域との関わりをもって生活している。さらに、総合的な学習の時間に「地域理解学習」を実践していることにより、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した生徒の割合が、今年度も全国と比較して上回った。